

# かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 15 No 4

165号

平成19年 4月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

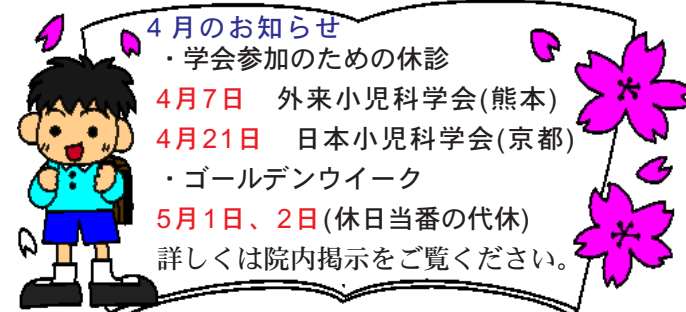
## たいへんお世話になりました

青葉区川内元支倉 早坂 由美

転勤で仙台を離れる事になり、言葉では言い表せない程お世話になった「かわむらこどもクリニック」への想いを是非伝えたいと思いペンをとりました。

はじめてクリニックに伺ったのは娘の2ヶ月健診で、時の経つのは早くあっという間に娘も2歳5ヶ月になりました。お世話になった期間は短いのですが、本当に濃厚な思い出ばかりです。ご存知の通り、先生の理念である「母親の不安・心配の解消」は、子供を持つ親として本当に救われる事ばかりです。クリニックに通院する事はもちろん、HPの小児科ミニ知識は先生に診察して頂いている気分です。沢山の項目を何度も繰り返して読んでいます。

私が一番お世話になったのが、帰省の時です。私の家は沖縄の離島。島からは船に乗って隣の島の病院に行きます。いつも長期間帰省する私と娘は、かかりつけ患者さん専用のメールで相談が出来る事で、何度も助けられました。あれは去年の11月、突然娘の右膝に水ぶくれが出来てしまい、様子を見ていたら太股にも広がりました。これはただ事ではないと思いましたが、もう船の時間は無いし…と焦ってしまいました。そこで携帯から写真を添付し先生に相談をすると、「とびひ」でしょうとの事。急がなくっていいことを知り、翌日に安心して皮膚科を受診することができました。診察結果を先生にメールで報告しましたが、離れていても、このようにかかりつけの先生に遠隔診察をして頂くことによって、不安や心配は一気に解消したのでした。同行した同じ歳の娘を持つ義姉が、送信されてくる先生直々のメールに驚きと感動で随分羨ましがられ鼻高々になった私でした。それもこれも激務をこなしながら、理念を貫く先生の姿勢に改めて、偉大な先生だと感じたのでした。昔では到底考えられない、ネット・メール社会という便利な世の中と、柔軟な対応をして下さる先生にいつも感謝しております。



4月のお知らせ

- ・学会参加のための休診
- 4月7日 外来小児科学会(熊本)
- 4月21日 日本小児科学会(京都)
- ・ゴールデンウィーク
- 5月1日、2日(休日当番の代休)

詳しくは院内掲示をご覧ください。

「感謝」と言えば、「お母さんクラブ」の存在です。先生をはじめ、スタッフの皆さんの手作りによる勉強会、そしてクリスマス会などは、本当に素晴らしい企画ばかりでとても楽しかったです。クリニックに先生に逢いに行くときは、体に何らかの不具合がある時。だから必然的に楽しい話をしている場合じゃないのですが、クラブでは普段聞けない些細な事や、医療以外のお話でもOKの場所です。いつも身近に感じるクリニックの存在ですが、クラブに参加した事で、また一層距離が近く感じられました。



友達ともよく話をしますが、「先生もスタッフの皆さんもいて、ここは本当に何が起きても一番安心していただける所だね」と話した事がありますが、皆同じ気持ちだと思います。ママ友も出来ました。転勤族にとってこのような会は本当に有難いと思いました。平日仕事の主人は、いつか参加したいと言いつつも、結局一度も参加する事が出来ませんでした。是非今後のお母さんクラブで、お父さんの都合が合えば家族皆でかわむらこどもクリニックを身近に感じて勉強するチャンスですので、家族全員参加を提案したいと思っています。

恥ずかしい話ですが、年末になると体調を悪くしやすいようで、毎年御用納め直前に家族皆でお世話になっておりました。娘の微熱、私の熱、主人は風邪と言う事で、スタッフの皆さんの休憩室に布団を敷き、点滴しながら家族皆で寝た思い出もありました。水痘で隔離室の経験もありました。未だお邪魔してないのが、レントゲン室と川村先生邸です。

今後のお母さんクラブの企画として、「先生宅訪問」を提案したのですが、どうも実現しないまま仙台を離れてしまう事になりました。

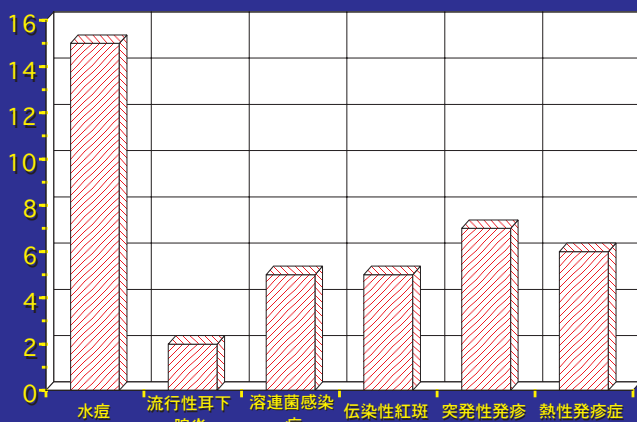
転勤する事になり、このように沢山の思い出のあるクリニックに通えなくなる寂しさを見ると、とても辛いですがネットの環境があるので、何処に行っても不安はありません。「いつでも、相談の窓口は開いているので大丈夫です。これからも、しっかり頼ってください。」と嬉しいメールも先生から頂きました。今後も身近に先生を感じていられそうで心強いです。これからも引き続き親子共々宜しくお願い致します。

## 読者の広場

先月は38通のメールを頂きました。医療相談も多かったのですが、転勤の時期なのか挨拶なども頂きました。一番の感謝は、早坂さんから頂いた一面記事です。当院では「院内報」、「お母さんクラブ」、患者さん専用のアドレスなど、コミュニケーションを大切にしています。なかなか新聞への投稿はありませんでしたが、今回は大作を頂いたので紹介しました。もうひとつは車で1時間以上かけて心配を解消に来る佐藤さんのメールを紹介します。「鹿島台の佐藤 凜の母です。一昨日は大変お世話になりました。一ヶ月以上風邪が治らず、2件の病院へ行っても良ならず、おまけにお腹にしこりがあると勝手に思い込み、最後の救いを求めてまたかわむら先生の元へ飛んでいってしまいました。いつも心底不安なことがあると、かわむら先生の所へ行ってしまう、本当に心から申し訳ないと思っています。年2、3回しがクリニックへ行かないのに、先生もスタッフの皆さんも大変優しく扱ってくれ、毎回私の心の中を幸せいっぱいにして下さいます。今思えば、仙台にいた頃は毎月必ずクリニックへ行き、お世話になっていました。一番印象に残っていることは、凜が三ヶ月の時、泣き入りひきつけを起こし、翌日半泣き状態でクリニックを訪れた時のこと。私が「泣く度にひきつけるが不安です。」と言うと「ここで30分泣かせてみる」と、先生がおっしゃったのには驚きました。クリニックの中は混んで忙しくしているのに、30分もの長い間、凜のギャーギャー泣く声を聞いていて下さいました。「ほら、ひきつけなかっただろう」と、私を安心させてくれたのです。その日をきっかけに私と凜は、「もうこの先生について行こう!」と心に決めました。その翌週には労災病院に入院、今日まで敬知れず病気をしてしまいました。保育園に行ってもいないのになぜ…と自分を責めてしまいました。しかし、看護師さんに励まされ、仙台を離れてからもいつも思い出して頑張ってきて来ました。私にとってかわむらこどもクリニックは、強い心の支えになっています。先生、看護師さん、年数回しかお会いしませんが、クリニックを訪れた時には、「また心配性の母親が来たな…」と思い、話を聞いて下さいね。凜のこの気難しい性格を知り、理解し、的確なアドバイスをしてくれる中米婦長さん、佐藤看護師さん、お二人には本当に助けていただいております。同じ女性として本当に素敵だな、と憧れてしまいます。先生、スタッフの皆さん、これからもどうかよろしくお願いします。」。鹿島台という場所を知っていますか。仙台から北東の方向で、約40km前後で通院には1時間30分以上かかるとおもいます。困った時には、いつでも来て下さい。そして、理念である「お母さんの不安・心配の解消」を持ち帰って下さい。黒川郡大和町や柴田郡川崎町から通ってくる人もいます。遠くから、何軒かの小児科を通り越して来てくれる患者さん。当院の良さをよく理解してくれていると思うと、とてもありがたいことです。次はちょっと嫌な思いをした患者さんのメールなので、あえて匿名にしました。「いつも大変お世話になっております。〇〇の母です。今日はどうしてもお話ししたいことがありメールをします。昨日 〇〇区役所で1歳6ヶ月検診を受けてきました。先生もご存知のとおり〇〇は体重が14キロもあるせいかまだハイハイと膝を立てて体を起こすことしかできません。〇〇区役所にいた小児科の〇〇先生はまだ立てないことをとても問題がある、これは異常なことだと何度も言い、保健師さん呼び、どうしたら良いだろうと大事になりました。最後には〇〇区役所にいる整形外科の先生に一度診てもらったほうが良いなどと言われました。〇〇は首がすわるのも、ハイハイも遅かったので私は気にしていない事。うちにはかかりつけの小児科の先生がいるので、その先生に相談をしますと言って帰ってきました。でも、〇〇先生は「周りの子が歩いているのを見てなんとも思わないの?」というひどい言葉を言いました。私はとても傷つき、悲しくそしてあきれて帰ってきました。もう二度と公共の検診にはいかないと決心しました。私のように転勤族で周りに親族やあまり相談できる人もいないのに公共の施設がこんなのでは話にならないと思いました。先生にこんなメールをお送りして申し訳ありません。あまりに悔しく悲しく聞いていただきたくてメールをしました。いつも先生が励ましてくれる温かい言葉がどんなにありがたいものが痛感致しました。うちもいつ転勤があるかわかりませんが、これからもよろしくお願い致します。先生も毎日激務だと思いますのでお身体大切になさってください。」。返事を送った後お母さんの気持ちも素晴らしいメールを頂きましたが、紙面の都合で省略します。今回の出来事には、自分にも少し責任がありました。確かに発達に関しては奥手で、1才6カ月で歩かないのは気になっていました。検診の前に、しっかり話しておけばと反省しました。転勤が決まりそうだったので、自分の責任を果たすためにも転勤前に専門の先生に見てもらう手はずをたてました。公共の検診に行かないなんていわないで下さい。見ていただいた先生の肩を持つわけではありませんが、恐らくは心配してくれたためでしょう。ただ、言葉や伝え方に、配慮が足りなかったところもあったようで少し残念でした。



### 3月の感染症の集計



水痘は少し減少傾向がありますが、まだまだ多くみられます。おたふくは少なくなってきました。グラフには示していませんが、インフルエンザは前月の98名から約3倍近く増加しています。地域差はあるようですが、月末ぐらいから減少しています。今年は流行の規模としては、あまり大きくないようです。

#### テレビ放映の御紹介

3月にNHKの教育テレビ『ETVワイド ともに生きる』という番組で「医師と患者のコミュニケーション」が放映されました。前回の内容を受けるかたちで、『生活ほっとモーニング』で、「医師とのコミュニケーション」について視点をかえて放送されることになりました。医師と患者のコミュニケーションの一つのモデルとして、当院の取り組みが紹介されます。

4月11日(水) NHK総合 生活ホットモーニング 8:35~

#### 編集後記

字数が多く読みにくくなりましたが、少しでも多くのお母さんの気持ちを伝えたいと思いました。4月~5月は休みが多く御迷惑をお掛けしますが、御理解ください。当院の活動も、ついにテレビで全国でビュー(それもNHK)です。これも多くの親御さん達の力のお陰と思っています。本当にありがとうございます。



**K's clinic**

院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。お陰様で再版の方向に！ 詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を